

原子力規制検査の効率的運用および検査官の能力向上等に関する調査研究

(2) 原子力規制検査制度の継続的改善に向けた施策

Research on Efficient Operation of Nuclear Regulatory Inspection System and Improvement of Inspectors' Competence (2) Measures to Continuously Improve the Nuclear Regulatory Inspection System

*杉野 弘樹¹, 江藤 淳二¹, 小野寺 将規¹, 藤山 翔乃¹,
中島 清¹, 義澤 宜明¹, 鈴木 清照¹,
¹三菱総合研究所

原子力規制検査制度の効率的な運用と検査官の能力向上を目的として、検査業務に携わる原子力規制庁職員を対象にアンケート調査とインタビュー調査を実施した。調査の結果、検査官の原子力規制検査制度の概念に関する理解が浸透していることが明らかになった一方、検査制度の運用や検査官の能力向上に関する改善点が抽出された。本稿では、有識者意見を踏まえ、検査制度を継続的に改善するための施策等を提案する。

キーワード：原子力規制検査制度，原子炉監督プロセス，検査官の力量，リスクインフォームド，パフォーマンススペース

1. 緒言

2020年4月から施行された原子力規制検査について、アンケート調査及びインタビュー調査を実施して、定着状況（理解度、習熟度など）を把握することに加え、制度の運用開始によって浮き出てきた問題点等を取りまとめるとともに、有識者意見を踏まえ、制度の継続的改善に向けた施策（案）等を取りまとめた。

2. 調査結果の整理及び有識者意見^[1]

本調査研究の結果、検査官の原子力規制検査に対する理解度がある程度高まっているとの結果が確認された一方、検査官による検査活動の実践程度の把握や検査制度の運用に関する改善点が抽出された。

また本調査研究の結果について、有識者からは、本検査制度のより効果的な実践に向けて、回答者による回答基準のばらつきへの対処、実践の程度を把握する上での気力・精神的要素の考慮、本制度に係るインフラの充実、検査官の力量評価のための指標の必要性等について多く言及された。

3. 制度の継続的改善に向けた施策（案）

著者らは、検査官による検査活動の実践程度の把握という観点では、著者らは今後特に、実践（Skills）や姿勢（Attitudes）といった要素の把握が重要であると考え、検査官の実践（Skills）を高める組織大の施策（案）として、事業所間ピアレビュー、検査活動に係るCAP活動の実施などの必要性を提案した。

検査官による検査活動は、原子力安全の持続的向上の一役を担う重要な現場活動の1つであり、より効果的な原子力規制検査制度の運用に向けては、制度の継続的改善はもとより、検査官の力量向上に資する、組織全体として高いモチベーションの維持、継続的に知識・実践力向上を図れる仕組み・環境を構築していくことが重要である。

本調査研究は、原子力規制庁の「令和2年度原子力施設等防災対策等委託費（原子力規制検査の効率的運用、検査官の能力向上等に関する調査）」として行われたものである。また、本稿は著者の意見を表明したものであり、必ずしも原子力規制庁の見解を反映したものではない。

参考文献 原子力規制委員会ホームページ，原子力規制検査に関する文書，検査制度の自己評価に関する文書，令和2年度原子力施設等防災対策等委託費(原子力規制検査の効率的運用、検査官の能力向上等に関する調査)報告書

(https://www2.nsr.go.jp/activity/regulation/kiseikensa/guide_index.html)

* Hiroki Sugino¹, Junji Eto¹, Masaki Onodera¹, Shono Fujiyama¹, Kiyoshi Nakajima¹, Nobuaki Yoshizawa¹, Kiyoteru Suzuki¹

¹Mitsubishi Research Institute, Inc.